



2025「植村直己冒険賞」 受賞者が決定

2月12日(木)、2025「植村直己冒険賞」受賞者の記者会見を東京会場(明治大学グローバルホール)で開催し、その様子を豊岡会場(府中小学校)に中継しました。

30回目となる今回は、2025年に日本人が挑んだ131件の冒険の中から「素潜り・^{てもり}手鋸一本で、前人未到の100kg超イソマグロ捕獲」を行った小坂薫平さんが選ばれました。

《問合せ》日高振興局地域振興課 ☎21-9056

素潜り・手鋸一本で 前人未到の100kg超イソマグロ捕獲

こさか くんぺい
小坂 薫平さん

■プロフィール

30歳。1995年秋田県生まれ。東京海洋大学卒。鋸を片手に素潜りで海へ潜り、巨大な魚を突くスピアフィッシャー。2019年、日本人初となるスピアフィッシング世界記録を樹立。以降、現在までに6つの世界記録を樹立してきた。2015年から前人未到の「100kg超のイソマグロを仕留める」ことをテーマに活動を行ってきた。



手鋸一本で挑む 海の本質を体感する冒険

2021年からは毎年2カ月間、イソマグロを狙い遠征を続けてきました。25年5月に遠征先として向かった南西諸島で、最終日に全長198cm、重さ105.5kgのイソマグロを手鋸で仕留め、10年越しの挑戦で新たな金字塔を打ち立てました。

1尾の魚を仕留めるに至るまでのプロセスにおいて「海や魚と対等であるか」など独自の判断基準にこだわり、すでに人が見つけた魚がいる場所や実績のある道具をあえて避け、独自の挑戦を続けていきます。



この活動は、自然との真剣勝負の中で自身の限界を試す探求であり、命と命の駆け引きを通じて海の本質を体感するものでもあります。

©Mission100 Koh Yamaguchi

好奇心という、冒険の始まり

今回の挑戦は「海の中を知りたい」という好奇心から始まりました。その歩みが植村直己冒険賞として結実したことを、心から光栄に思います。

魚を仕留める瞬間は、長いプロセスの最後の1%に過ぎません。場所を探し、島の方々の協力を得てようやくたどり着ける瞬間です。支えてくれた方々に深く感謝しています。

選考の連絡を受けた際、偶然にも植村さんの著書を読んでいました。資金が乏しくても直感で動く植村さんの「情熱の純度」を、私も生涯忘れずにいたいのです。この受賞を糧に、これからも自身の衝動を大切に歩んでいきます。



授賞式を開催

- ▶日時 6月20日(土)
- ▶場所 日高文化体育館(日高町祢布)
- ▶内容 受賞者表彰、記念講演など